

# 金 沢 入 門 ー 自 然 と 風 土 ー

## ー 2015年度(平成27年度)後期開講総合科目:資料 ー

開講:金曜日1時限  
講義室:E10講義室  
定員:150名

**コーディネーター:**塚脇真二(環日本海域環境研究センター)

**副コーディネーター:**酒寄淳史(人間社会学域学校教育学類), 高原利幸(理工学域環境デザイン学類)

**大テーマ:**現代を読み解く・世界を読み解く

**中テーマ:**地域の個性と異文化理解

### 授業の主題

かつては加賀百万石の文化が栄えた地として、いまは文化資産を活かした観光都市としてまた北陸の経済の中心として金沢は知られる。しかし、金沢を特徴づけるのは文化ばかりではない。金沢には豊かで変化に富んだ気候があり自然がある。このような風土があつてこそはぐまれた金沢の文化であるともいえる。

そこでこの授業では、風土と文化との密接なかかわりを金沢という地で学び考えることを主題としたい。この目的にそつて、それぞれの担当者が自然科学のそれぞれの専門の立場から、しかし、それぞれに話題を連携させながらこの授業全体を進めていく。前半の地質や地形、火山、化石、そして日本海についての話題では、金沢という地を自然のおおきな枠組みの中で位置づけることになる。ひきつづいての動物や植生、海の生物の話はこの地をとりまく身近な自然のいとなみの理解を助けるはずだ。後半の話題は、冬の大雪や春の黄砂という大気現象ではじまる。金沢に暮らしているからにはこの地を特徴づける天候は理解しておくべきものといえる。その後はさまざまな自然の中でいとなまれてきた金沢での伝統的なまちづくりやその対極にある現代的な土木建造物の建設、さらに街の開発の負の側面としての大気汚染や自然災害の現状と対策について言及する。そして、この授業の最後には、これらを総括しての北陸の風土と金沢人の気質について考える材料を提供する。

自然科学のさまざまな視点から金沢の風土をまず学び考えたうえで、金沢の文化を自分なりにとらえてもらいたい。そして、それぞれに自分なりの金沢像をみつけてもらいたいものと思う。

### 各回の内容と担当者(所属)

- |                  |                               |
|------------------|-------------------------------|
| 10月 2日:① ガイダンス   | ・・・塚脇真二(環日本海域環境研究センター)        |
| 9日:② 金沢の文化と風土    | ・・・長田哲也(北陸放送株式会社アナウンス部)       |
| 16日:③ 金沢の地質と日本海  | ・・・塚脇真二(環日本海域環境研究センター)        |
| 23日:④ 金沢の古生物     | ・・・神谷隆宏(理工研究域自然システム学系)        |
| 30日:⑤ 金沢の火山      | ・・・酒寄淳史(人間社会学域学校教育学系)         |
| 11月 6日:⑥ 金沢の植物   | ・・・木下栄一郎(環日本海域環境研究センター)       |
| 13日:⑦ 北陸の海の幸-イカ- | ・・・鈴木信雄(環日本海域環境研究センター/臨海実験施設) |
| 20日:⑧ 北陸の鳥類      | ・・・木村一也(地域連携推進センター)           |
| 27日:⑨ 金沢の動物      | ・・・水野昭憲(石川県立自然史資料館)           |
| 12月 4日:⑩ 金沢の雪    | ・・・竹井 巖(北陸大学薬学部薬学基礎教育センター)    |

- 11日:⑪ 金沢の大気汚染 ……古内正美(理工研究域環境デザイン学系)  
18日:⑫ 金沢と黄砂 ……松木 篤(環日本海域環境研究センター)  
1月 8日:⑬ 金沢の地盤と土木建造物 ……高原利幸(理工研究域環境デザイン学系)  
22日:⑭ 金沢の歴史的資産を活かしたまちづくり……小林史彦(理工研究域環境デザイン学系)  
29日:⑮ 北陸の風土と金沢人 ……長田哲也(北陸放送株式会社アナウンス部)

### 評価の方法・評価の割合など

1. 授業には3分の2以上の出席を必要とする.
2. 最終的な評価は学習姿勢(毎回の授業終了前に書いてもらうミニレポート)の積極性で判断する.
3. 評価の割合は毎回のミニレポート(100%).

### テキスト・参考書など

毎回の授業時に配布するプリントなど.

### オフィスアワー

とくに指定しない. メール(下記)でコーディネーターあるいは副コーディネーターに問い合わせること.

### 履修上の注意

1. 出席等で不正を行わないこと. 見つけた場合は, 無条件で「不可」とし, 以後の受講を認めない. また, 授業中の私語はくれぐれもつつしむこと.
2. 金沢の行事やイベント等に興味を持ち, 参加したり調べてみたりすること. また, 街を歩いて, いろいろなものを見たり, いろいろなものを食べたり, いろいろな人と触れ合い, さまざまなものを見聞すること.

環日本海域環境研究センター 塚脇真二 (shinji@se.kanazawa-u.ac.jp)  
人間社会学域学校教育学類 酒寄淳史 (sakayori@ed.kanazawa-u.ac.jp)  
理工研究域環境デザイン学系 高原利幸 (takahara@staff.kanazawa-u.ac.jp)